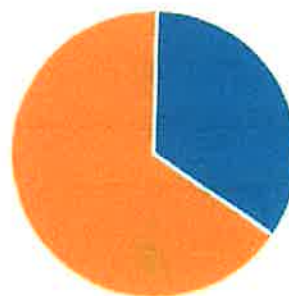


Forms によるアンケート調査 小学部 11名 中学部11名 高等部 15名 その他1名 計38名

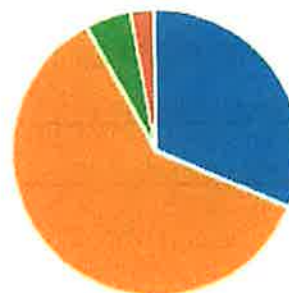
1 【教育目標】 教育目標：学校教育目標の具現化へ向け、諸計画等を連動させ取り組んでいる。

● 良い。	13
● やや良い。	25
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



2 【教育課程】 教育課程は、カリキュラムマネジメントの視点を押さえながら、児童生徒の実態等に即し、適切に編成されている。

● 良い。	12
● やや良い。	23
● やや不十分。	2
● 不十分。	1

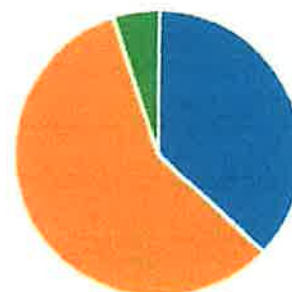


- ・教科の目標設定が難しく感じる。教育課程が子どもたちの実態にあっているのかわからない。
- ・個別の指導計画の評価、年間指導計画の評価が次年度の教育課程編成に十分生かされていない。個別の指導計画や年間指導計画の評価を次年度の教育課程へ反映させる方法を考えていきたい。

・職員の回答として、良い(12名)、やや良い(23名)と比較的高い評価となっているが、やや不十分(2名)不十分(1名)という回答もみられた。今後も昨年度まで指定研究として取り組んできた成果と課題等を踏まえ、新たな課題等については、全体研修等で取り組んで、職員間で共有できたこと、確認できたこと等を教育課程に反映させていければと考えています。

3 【個別の教育支援計画】 児童生徒の実態と教育的ニーズを把握し、保護者や関係機関等と十分に連携して計画されている。

● 良い。	14
● やや良い。	22
● やや不十分。	2
● 不十分。	0



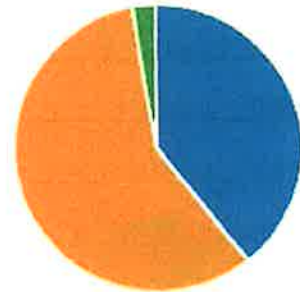
・教育支援計画の「身に付けさせたい力」の設定の仕方は、個々の教師に任されており、「身に付けさせたい力」の各項目を考える際の視点について、確認したほうがよいのではないか。

- ・センター生は保護者やセンター職員との十分な連携が難しいと感じている。
- ・センター職員との連携が難しいところがある。⇒支援部を通して、必要に応じて情報共有を図る機会をもつようにする。

・今年度もコロナ禍の影響でセンター職員との十分な連携がとれませんでした。支援部を通して必要な情報をお互いに共有したり、その他、可能な限りの連携を図っていければと思います。また学習指導要領で示された資質・能力を児童生徒が卒業するまでの間にどんな力をどのようにして身につけさせるのか、実態が重度であれば、どのように進めればいいのか。特別支援学校に裁量がある重要な事項となります。今後も職員間で情報等を共有していくことが大事になってきます。

4 【家庭との連携】 児童生徒の支援や指導について、保護者に十分な説明がなされ、良好な信頼関係を築くことができている。

● 良い。	15
● やや良い。	22
● やや不十分。	1
● 不十分。	0

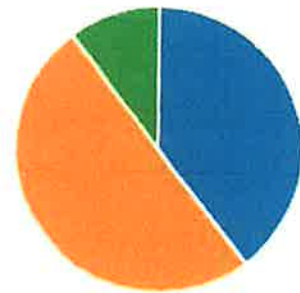


・保護者と面談等で児童の実態や課題について共有する機会が得られておらず、情報共有が十分にできていない。
⇒電話やメール等を活用し、児童の学校での様子を定期的に伝えるようにする。

・本年度も、コロナ感染症対策のため、保護者との関わりが思うようにとれなかった部分もありました。今後もいろんな状況も想定しながら、可能な限りの連携を図っていきたいと考えます。

5 【関係機関との連携】 児童生徒の適切な支援や指導について常に追究し、関係機関と緊密な連携と協働が図られている。

● 良い。	15
● やや良い。	19
● やや不十分。	4
● 不十分。	0



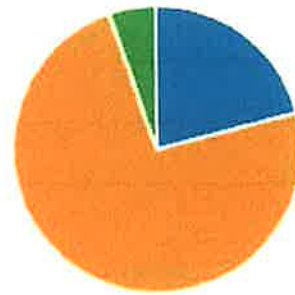
- ・センター職員との緊密な連携と協働はほとんどできていないと感じる。
- ・センター職員との連携が難しいところがある。⇒支援部を通して、必要に応じて情報共有を図る機会をもつようにする。
- ・事務書類の作成や日々の業務に追われ、教材研究の時間が十分に確保することが難しい。
- ・コロナの影響もあって、こちらの希望通りの連携がとれない。あるいは限定的である。しかたないとはいえ、このような状況でも少しでも連携しながら行なえる方法やアイデアについて、皆で考えて行ければと感じる
- ・コロナ禍ということもあって、あまり外部の関係機関と接する機会がなかったように感じた。

・今年度も沖縄南部療育医療センターとの様々な連携もコロナ禍では、なかなか計画とおりに、進められないところもありました。今後も、コロナ禍も見据えながら、学校・センター連絡会を活用したり、支援部を通して相互の情報等をしっかり共有しながら、またコロナ禍でみえてきた課題やうまくいった成果等を参考にして、センターとの連携・協力体制を深めていければと考えています。

6

【年間指導計画】 児童生徒の実態等に即し、教科等の関連や系統性を踏まえながら、効果的な単元や題材が適切に計画されている。

● 良い。	8
● やや良い。	28
● やや不十分。	2
● 不十分。	0



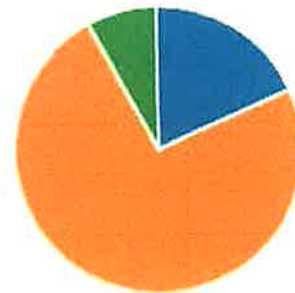
- ・研修でも取り組んでいるが、実態に合わせた教科の目標設定が難しく感じる。
- ・単元配列表の作成で、教科間の指導内容が一覧で見えるようになり、教科等の関連を意識して単元設定につなげることができた。しかし、個別の指導計画を踏まえ、児童の実態に合った年間指導計画を作成することは今後の課題と考えています。

・昨年度の指定研の反省・課題を踏まえ今年度、職員研修で取り組んできたことを職員間で共有していきながら、今後も学習指導要領で示された「内容のまとめり」や評価規準について原理原則をおさえながら、学習グループに係る年間指導計画を作成していきたいと考える。また今後も、新様式を参考にしながら本校の実態に応じた効果的で活用できる年間指導計画を作成していきたいと思います。

7

【個別の指導計画】 児童生徒の実態等に応じて、各教科の年間指導目標を踏まえ、学習目標や具体的な学習活動と手立てが適切に計画されている。

● 良い。	7
● やや良い。	28
● やや不十分。	3
● 不十分。	0

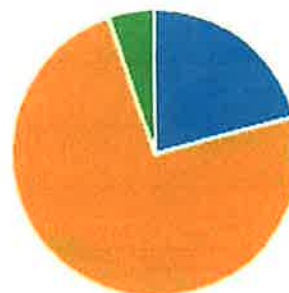


- ・研修等を含め、取り組み始めたばかりなので、児童生徒の実態に応じて適切に計画できているのかまだよくわからない。
- ・今年度から研修部を中心に年間指導目標の作成等にも取り組んでいるが、作成方法や作成する意義の理解が不十分であると思われる。研究と修養に各自努めていく必要があるのではないかとと思われる。
- ・合わせた指導で行っている教科等の目標、内容が曖昧になっているような気がする。

・職員の回答として、良い(7名)、やや良い(28名)と比較的高い評価となっているが、やや不十分(3名)という回答もみられた。個別の指導計画に関しては、今後も研修等で理解を深めながら、職員間で学習指導要領で示された「内容のまとめり」や評価規準についてもしっかりおさえながら、「学びの履歴」として有効に活用できるツールとして行ければと考えています。

8 【学習評価】 個別の指導計画に沿った目標準拠評価が行われ、関係者間（ヨコとタテの繋がり）で学習の成果と課題を共有し、引き継ぐ事ができている。

● 良い。	8
● やや良い。	28
● やや不十分。	2
● 不十分。	0

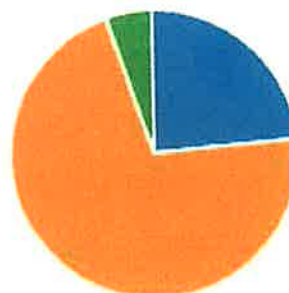


・重度・重複の児童の目標設定はやっぱり難しく、評価もこれでよいのか自信がない。

・職員の回答として良い(8名)、やや良い(28名)と比較的高い評価となっているが、やや不十分(2名)という回答もみられた。今後も学習評価についても職員研修等を通して、職員間の共通理解を深めていければと考える。

9 【授業づくり】 学部、学年や学習グループ等で連携して授業の振り返りや教材研究に取り組み、課題を共有しながら、共同で効果的な授業づくりが行われている。

● 良い。	9
● やや良い。	27
● やや不十分。	2
● 不十分。	0

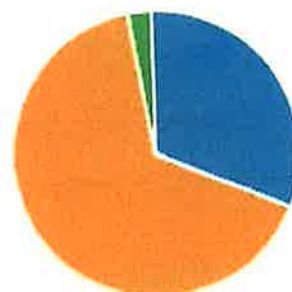


・グループで話し合う時間があまり確保できなかった。

・学習評価の「指導と評価の一体化」そして授業づくりに関しては、連動した重要な事項であり、教師としての力の見せ所でもあります。今後も校内研修と連動させながら、講義・演習、ワークショップ形式での参加型の研修形態などを活用して、時間の有効活用も図っていきたいと考えます。

10 【学習指導(指導力)】 児童生徒の実態や興味・関心に応じた手立て（教材・教具等）を工夫し、常に効果的な授業展開（実践）に努め、発生する課題に応じて授業改善が行われている。

● 良い。	12
● やや良い。	25
● やや不十分。	1
● 不十分。	0



・肢体不自由の本校にとって教材教具の活用は、とくに大切な授業のツールになると思います。ICT 機器の活用も児童生徒の実態を踏まえた上での見極めが必要なのは、授業実践からも感じられます。

・今後も時間の確保だけでなく、職員間で好事例の共有化や OJT(校内人材活用)など効率的に取り組みたいと思います。

11

【交流及び共同学習】 障がい者理解の促進に向けて、学校間交流や居住地校交流に積極的に取り組まれている。

● 良い。	8
● やや良い。	20
● やや不十分。	7
● 不十分。	3



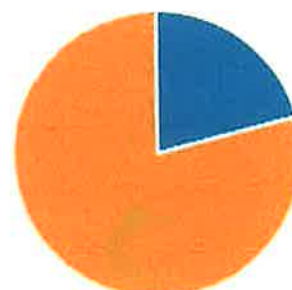
- ・コロナ禍で交流ができていない現状がある。
- ・コロナ禍ということもあって、あまり外部と接する機会がなかったように感じた。
- ・コロナ禍の現状なので、やむを得ない点がある。感染状況を踏まえながら可能な取り組みを行うしかないと思う。
- ・コロナ禍の状況で、中々交流機会が設けられていない。
- ・コロナ感染拡大予防において交流学习の実施がまだできていないため
- ・コロナ禍なので、交流教育に取り組むことが難しい現状。コロナが落ち着いてからの再開が適切だと思う。
- ・今年度はまだ学校間交流が行われていないから
- ・コロナ禍のため実施したかよくわかっていない。
- ・現状、コロナ感染症対応のため、外部との接触を極力控えている状況下にあるため、致し方ないことだと思う。この状態がおさまれば、コロナ禍以前のように交流もまた活発化していくものと期待している。
- ・これもコロナ禍で以前のような積極的な取組はできていない。しかしビデオ交換や作品等の提供等、できることをやっているのではないかな。

・今年度もコロナ禍の影響で各学部直接交流する機会が厳しかったが、相手校とオンラインでの交流会を持ったり、間接交流会を持つなど、持ち方や交流内容を工夫することで有意義な交流会を持つことができた。今後もコロナ禍を踏まえ、制限のある中、交流できる方法を創意工夫していきたいと思います

12

【キャリア教育】 障がい者を取り巻く地域社会の課題を踏まえ、児童生徒の自立（就労）と社会参加を見据えて、体系的なキャリア教育や適切な体験活動に取り組まれている。

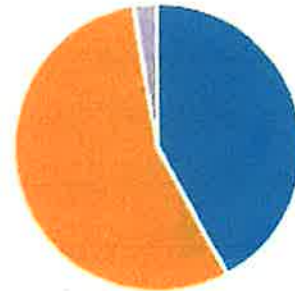
● 良い。	8
● やや良い。	30
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



・本校の児童生徒の実態を踏まえた「キャリア教育」をどのように取り組むのかも大切な視点です。卒業後の観点から今の授業に活かす視点とライフキャリアの視点から積み上げていく視点を明確にして、授業との関連「つながり」を図っていきたいと思います。

13 【生徒指導】 いじめの早期発見や指導時の言葉遣いなど、対処方針及び迅速な対応への体制が図られている。

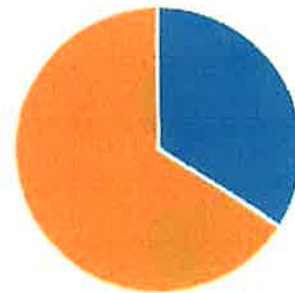
● 良い。	16
● やや良い。	21
● やや不十分。	0
● 不十分。	0
● その他	1



・いじめに関しては、全国的にまた沖縄県全体でも見直してされている重要事項です。本校においては、児童生徒にとってお互いに関わりやすい、心地よい学習環境や授業実践に向けて、職員の言葉遣いや声の大きさなどの振る舞いは、常に意識して丁寧に取りこんでいきたいと思っています。

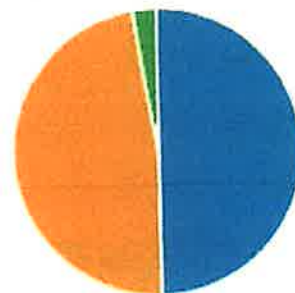
14 【就学支援及び教育相談】 地域のセンター校的役割を担い、就学指導（支援）や教育相談の充実に努めている。

● 良い。	13
● やや良い。	25
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



15 【校内研修】 課題を共有し、計画的に取り組みながら、教職員の専門性や指導力の向上を含めた課題解決が図られている。

● 良い。	19
● やや良い。	18
● やや不十分。	1
● 不十分。	0



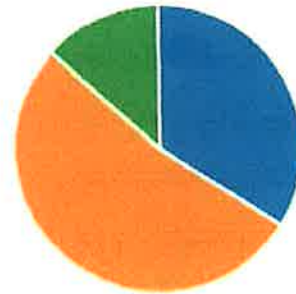
・新学習指導要領をもっと理解する必要がある、自己研鑽に努める必要があると思われる。

・職員の回答として、良い(19名)、やや良い(18名)と比較的高い評価となっている。今後もコロナ禍で制限のある中ですが、県内外の研修会に参加(オンライン等含む)するなどして情報を職員間で共有したり、研修部を中心に職員研修等を通して、職員間の共通理解を深めていければと考える。

16

【自立活動】 自立活動に関する専門的知識の共有や実践研究が行われている。

● 良い。	13
● やや良い。	20
● やや不十分。	5
● 不十分。	0



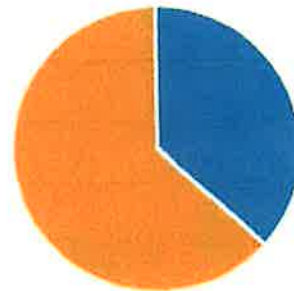
- ・自立活動の目標設定は難しく、複数の教師で目標設定について確認、協議できる体制づくりが必要ではないか。
- ・自立活動に関しても流れ図の意味をもっと理解する必要がある。教科と自立活動の違いなど。
- ・高等部には、自立活動の専科の配置がないから。
- ・自立活動より、教科をどう扱うかの方に重点がおかれている。

・良い(13名)、やや良い(20名)と比較的高い評価であるが、やや不十分(5名)という回答もみられた。自立活動の充実及び自立活動に係る専門性の維持は、肢体不自由教育の課題であり、今後もその仕組みづくりに取り組んでいければと考えています。

17

【校務分掌】校務の推進にあたり、教職員が組織の機能を発揮し、PDCA サイクルに則り、効率的・効果的に業務が遂行されている。

● 良い。	14
● やや良い。	24
● やや不十分。	0
● 不十分。	0

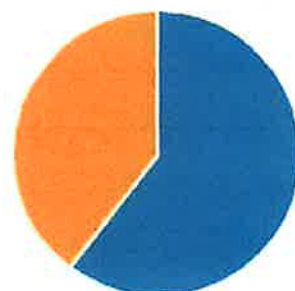


・良い(14名)、やや良い(24名)と比較的高い評価となっている。今後も学校の規模に応じた校務分掌の効率的・効果的な運営方法について、職員間で話し合いを持ちながら、より良い方向に持っていければと考える。

18

【職員会議等】 職員会議や学部会等の諸会議を通じて、学校運営や学部運営を円滑にすすめることができる。

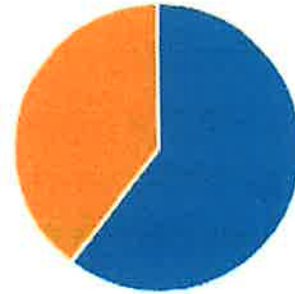
● 良い。	23
● やや良い。	15
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



・ほとんどの職員が良い(23名)、やや良い(15名)と比較的高い評価となっている。コロナ禍で集合型の職員会議等を持つことが厳しい中、Teams による会議に慣れてきて円滑な会議の進行、会議時間の短縮にもつながっているのではないかと考える。今後も会議が円滑にすすめられていける方法を職員間で意見を出し合いながら、より良い方向に持っていければと考える。

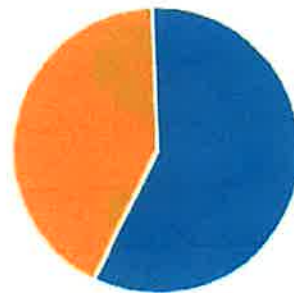
19 【緊急・救急体制】 非常時及び緊急時に必要で適切な対応を準備し、危機を回避できる体制が構築されている。

● 良い。	23
● やや良い。	15
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



20 【健康・安全・給食】 児童生徒の健康・安全・給食指導等に関して、医療的ケアの体制を含め、校務分掌との連携を図りながら、適切な取り組みがなされている。

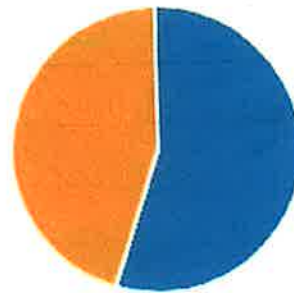
● 良い。	22
● やや良い。	16
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



・比較的高い評価となっている。今後も保健安全部を中心に「児童生徒の健康・安全・給食指導」等の取り組みについて全職員でしっかり共有・共通理解を図りながら、本校児童生徒にとって安心・安全な学校生活、教育活動を推進していきたいと考える。

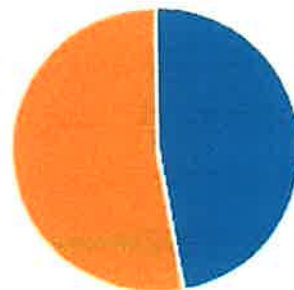
21 【外部への情報発信】 定期的にホームページを更新するなど学校の情報発信に努めている。

● 良い。	21
● やや良い。	17
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



22 【教育環境】 校内緑化や危険箇所の改善に努め、児童生徒にとって適切な教育環境が提供されている。

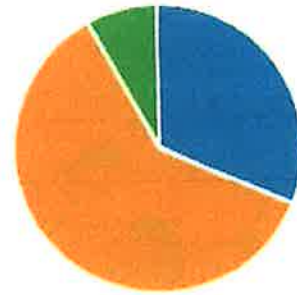
● 良い。	18
● やや良い。	20
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



23

【PTA 活動】 保護者と教職員が協力し合い、充実した PTA 活動が図られている。

● 良い。	12
● やや良い。	23
● やや不十分。	3
● 不十分。	0



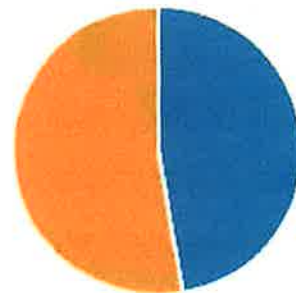
- ・コロナ禍で PTA 活動はほとんどできていないため判断は難しい。
- ・センター生の保護者の参加しやすい PTA 活動を検討する必要がある。
- ・コロナ感染拡大防止により保護者と職員とで行う活動の計画はあるが、まだ実施できていないため。
- ・ほとんど教職員が動いてる気がします。保護者も自発的に動いているのでしょうか？

・今年度もコロナ禍で PTA 関連の行事(スポーツ大会、PTA 作業、PTA 親睦ポツチャ大会)等が軒並み中止となり、残念な結果となりました。学校として今後もコロナ禍で制限のある中、交流できる方法を検討していきたいと思います

24

【職場環境】 教育上の課題や人間関係の課題等について、互いに対話できる雰囲気になっている。

● 良い。	18
● やや良い。	20
● やや不十分。	0
● 不十分。	0



・ほとんどの職員が、良い(18名)、やや良い(20名)と比較的高い評価となっている。今後も小規模校の強みを活かしながら、学部垣根を越えて、全職員で連携・協力しながら、より良い職場環境の維持・向上を図っていきたいと考える。